

茨城県景気ウォッチャー調査結果（令和5年12月調査）

茨城県では、本県の景気に関する生の情報を得るために、県民から景気の状態を3か月ごとにアンケート形式で情報収集する県独自の景気ウォッチャー調査を平成14年から行っています。この度、令和5年12月の調査結果がまとまりましたので、概要を以下のとおり公表します。

1 調査結果

～ 景気判断DIは先行きが4期ぶりに50を下回った～

☆ここがポイント

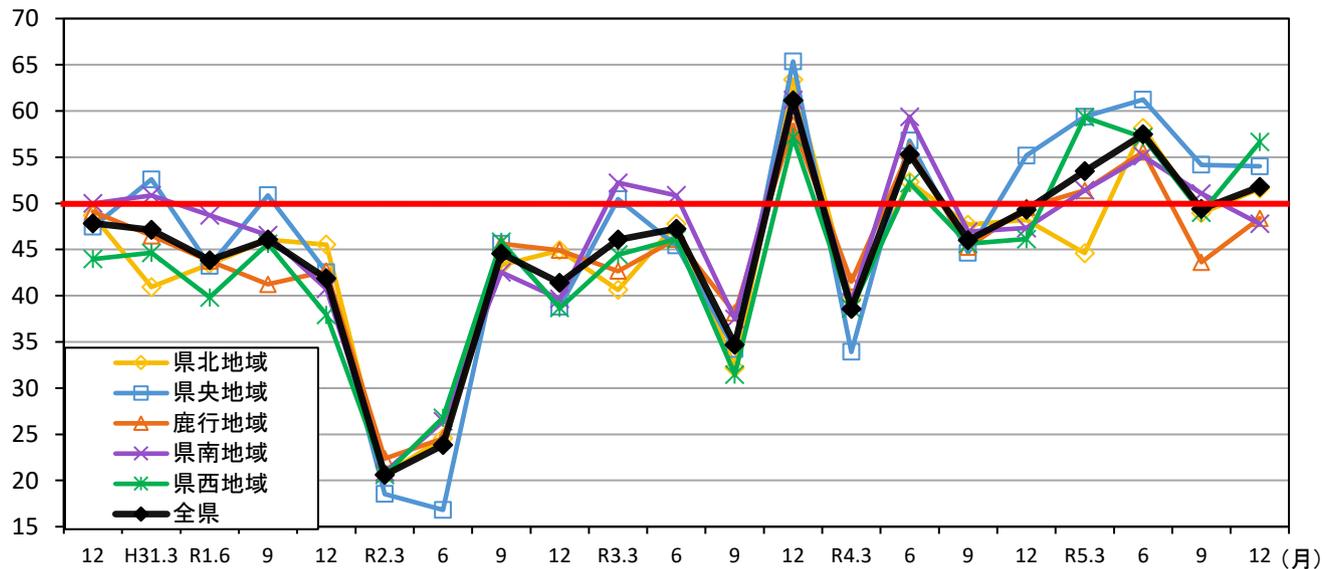
| 区分 | 景気現状判断DI | | 景気先行き判断DI | | ※DI(Diffusion Index) 景気動向を判断するために使用される指標の1つ。景気 directional (景気が上向きか下向きか) を見るもの。 本調査では、回答を5つの区分ごとに点数で表し、その点数を回答構成比(%)で乗じてDIを算出している。 <参考> DI値50超 : 上向き DI値50 : 横ばい DI値50未満 : 下向き |
|-----|----------|---------|-----------|---------|--|
| | 12月調査結果 | 前回調査との差 | 12月調査結果 | 前回調査との差 | |
| 県全体 | 51.8 | +2.4 | 48.6 | △3.0 | |
| 県北 | 51.6 | +2.7 | 44.7 | △5.8 | |
| 県央 | 54.0 | △0.2 | 49.0 | △2.6 | |
| 鹿行 | 48.4 | +4.8 | 51.6 | +1.6 | |
| 県南 | 47.8 | △3.3 | 42.8 | △11.5 | |
| 県西 | 56.6 | +7.6 | 54.6 | +3.1 | |

○県全体の景気判断DIは前回調査から、現状が2期ぶりに50を上回り、先行きが4期ぶりに50を下回った。

○地域別では、県南の先行きが前回調査を大きく下回った。分野別では、現状において雇用関連のみが前回調査を下回った。

○ウォッチャーからは、商品等の値上げや新型コロナウイルスに関するコメントが多く寄せられた。

(DI) 景気現状判断DIの推移（地域別）



〔調査の概要〕

- ・ 調査客体数 … 県内5地域（県北、県央、鹿行、県南、県西）ごとに50名、計250名。
- ・ 調査内容 … 3か月前と比較した現状及び3か月後の先行きの景気判断（「良い」「やや良い」「変わらない」「やや悪い」「悪い」の5択）とその判断理由（コメント）の回答を集計。
- ・ 調査時期 … 四半期（6、9、12、3月）毎に実施し、翌月公表。（今回調査期間：令和5年12月5日から20日まで）
- ・ 回答率 … 94.8%（250名中237名から回答）

〔地域区分〕
 県北地域：日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、常陸大宮市、大子町
 県央地域：水戸市、笠間市、ひたちなか市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村
 鹿行地域：鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
 県南地域：土浦市、石岡市、龍ヶ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
 県西地域：古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町

〈参考〉

現状判断回答構成比

| 調査年月 | 令和4年 12月 | 令和5年 3月 | 令和5年 6月 | 令和5年 9月 | 令和5年 12月 |
|-----------|-------------|------------|------------|------------|-------------|
| 回答 | | | | | |
| 良くなっている | 4.9% | 8.1% | 8.7% | 2.5% | 5.1% |
| やや良くなっている | 24.9% | 29.7% | 37.8% | 25.2% | 23.6% |
| 変わらない | 39.3% | 36.6% | 32.0% | 44.5% | 48.9% |
| やや悪くなっている | 24.2% | 19.4% | 17.8% | 22.7% | 18.1% |
| 悪くなっている | 6.7% | 6.2% | 3.7% | 5.0% | 4.2% |

先行き判断回答構成比

| 調査年月 | 令和4年 12月 | 令和5年 3月 | 令和5年 6月 | 令和5年 9月 | 令和5年 12月 |
|-----------|-------------|------------|------------|------------|-------------|
| 回答 | | | | | |
| 良くなっている | 1.8% | 8.4% | 5.0% | 2.9% | 2.5% |
| やや良くなっている | 18.2% | 32.6% | 27.4% | 24.8% | 17.3% |
| 変わらない | 47.0% | 38.1% | 46.5% | 51.3% | 56.1% |
| やや悪くなっている | 26.7% | 15.4% | 19.1% | 17.6% | 20.3% |
| 悪くなっている | 6.3% | 5.5% | 2.1% | 3.4% | 3.8% |

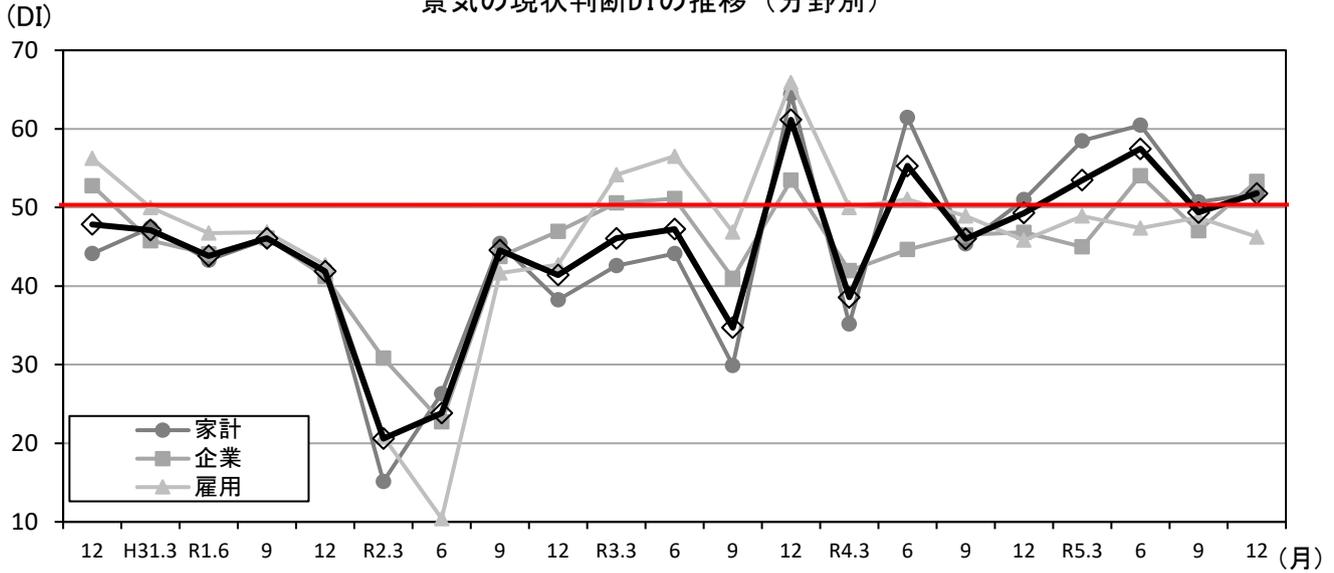
2 分野別の動向

(1) 現状判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より1.1ポイント上昇し、5期連続で50を上回りました。
 企業動向関連DIは、前回調査より6.3ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回りました。
 雇用関連DIは、前回調査より2.5ポイント低下し、6期連続で50を下回りました。

| 調査年月 | 令和4年 12月 | 令和5年 3月 | 令和5年 6月 | 令和5年 9月 | 令和5年 12月 |
|--------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 分野 | | | | | |
| 合計 | 49.3 | 53.5 | 57.5 | 49.4 | 51.8 |
| 家計動向関連 | 51.0 | 58.5 | 60.5 | 50.7 | 51.8 |
| 小売関連 | 44.6 | 49.6 | 58.6 | 47.4 | 43.9 |
| 飲食関連 | 65.5 | 68.1 | 69.4 | 56.9 | 64.1 |
| サービス関連 | 53.0 | 65.1 | 59.1 | 50.8 | 55.4 |
| 住宅関連 | 50.0 | 52.8 | 63.9 | 59.4 | 55.6 |
| 企業動向関連 | 46.8 | 45.0 | 54.1 | 47.0 | 53.3 |
| 農林水産業 | 40.6 | 28.1 | 46.9 | 40.6 | 50.0 |
| 製造業 | 48.4 | 46.0 | 55.9 | 45.5 | 53.8 |
| 非製造業 | 46.1 | 47.7 | 53.6 | 50.9 | 53.7 |
| 雇用関連 | 45.8 | 48.9 | 47.4 | 48.8 | 46.3 |

景気の現状判断DIの推移（分野別）

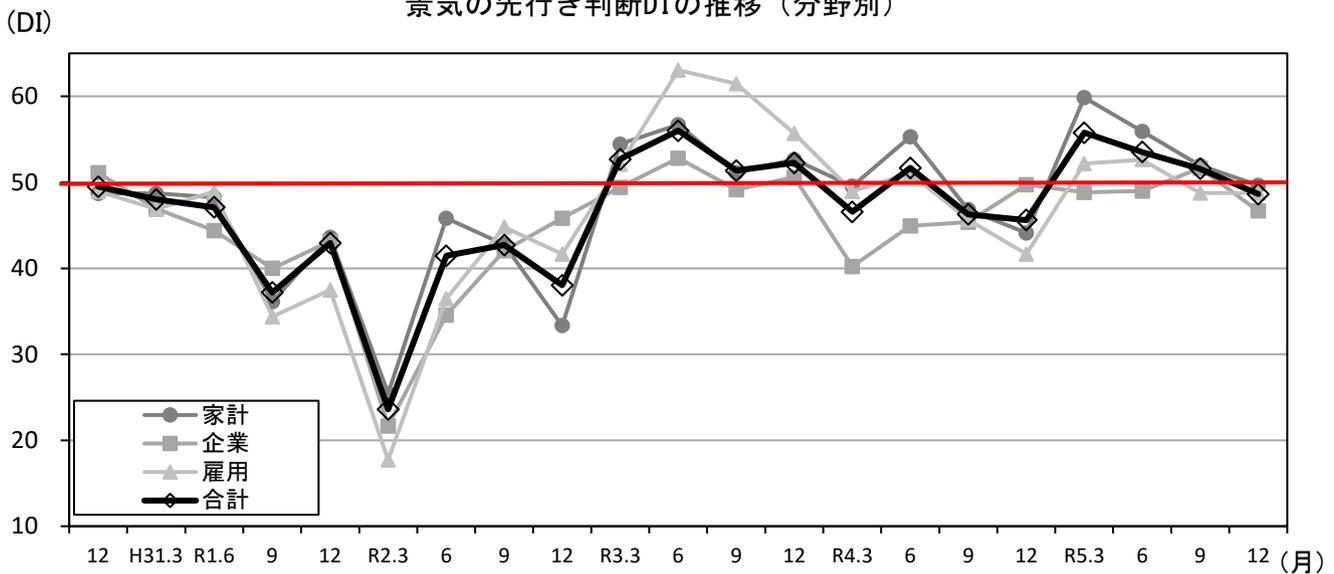


(2) 先行き判断DI

家計動向関連DIは、前回調査より2.3ポイント低下し、4期ぶりに50を下回りました。
 企業動向関連DIは、前回調査より4.9ポイント低下し、2期ぶりに50を下回りました。
 雇用関連DIは、前回調査と同値となり、2期連続で50を下回りました。

| 分野 | 調査年月 | 令和4年 12月 | 令和5年 3月 | 令和5年 6月 | 令和5年 9月 | 令和5年 12月 |
|--------|------|-------------|------------|------------|------------|-------------|
| 合計 | | 45.6 | 55.8 | 53.5 | 51.6 | 48.6 |
| 家計動向関連 | | 44.1 | 59.8 | 55.9 | 51.9 | 49.6 |
| 小売関連 | | 41.4 | 54.9 | 53.0 | 45.6 | 46.1 |
| 飲食関連 | | 47.6 | 66.7 | 65.3 | 61.1 | 60.9 |
| サービス関連 | | 45.9 | 63.7 | 56.3 | 54.2 | 47.9 |
| 住宅関連 | | 41.7 | 52.8 | 52.8 | 59.4 | 63.9 |
| 企業動向関連 | | 49.7 | 48.8 | 49.0 | 51.6 | 46.7 |
| 農林水産業 | | 46.9 | 37.5 | 43.8 | 53.1 | 50.0 |
| 製造業 | | 48.4 | 49.4 | 50.0 | 53.2 | 43.1 |
| 非製造業 | | 52.3 | 50.8 | 49.1 | 49.1 | 50.9 |
| 雇用関連 | | 41.7 | 52.2 | 52.6 | 48.8 | 48.8 |

景気の先行き判断DIの推移（分野別）



3 ウォッチャーのコメント抜粋

(1) 県北地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは51.6となりました。前回調査より2.7ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

- ・（観光型ホテル）昨年は実施を控えていた企業や団体の宿泊宴会、日帰り宴会の件数が増えているため、やや良くなっていると判断した。旅行や外食等の人数が増えていることは、景気の向上に関連性があると考えられる。
- ・（製造業（化学工業））顧客からの受注が増加しているため、やや良くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは44.7となりました。前回調査より5.8ポイント低下して、横ばいを表す50を4期ぶりに下回りました。

- ・（写真店）引き続きの物価高傾向が変わらない状況では、必要最小限の消費以外にはなかなか予算が割り振られないと思われるため、やや悪くなっていると判断する。
- ・（公共職業安定所）賃金は一時期最低賃金の関係で上げてきたが、ここにきて頭打ちをしている。就業希望者が少なく、事業所としてもこれ以上の伸びが期待できていない。また、高齢者の失業率が高まり、就業先もなく、生活への不安は今後続いていきそうである。また、労働人口が県北より流出しており、労働者も景気の良い会社に偏り、全体としてみれば賃金の底上げにはなっていない。廃業や事業の縮小を考えている事業所も多いため、やや悪くなっていると判断する。

③ 特徴的動き

- ・（スーパー）節約志向は高まっているが、年末年始、節分等の催事に関しては、より高価格帯が動く傾向にある。
- ・（製造業（電気機械器具））以前は納期が見通せない物品があったが、最近はそのようなことはないように感じる。

(2) 県央地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは54.0となりました。前回調査より0.2ポイント低下したものの、横ばいを表す50を5期連続で上回りました。

- ・（情報通信業（情報サービス業））賃金上昇の流れの半面、一部において予算削減要求が増えてきているため、変わらないと判断した。
- ・（設計事務所）業務案件の引合いが増えてきているため、やや良くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは49.0となりました。前回調査より2.6ポイント低下して、横ばいを表す50を4期ぶりに下回りました。

- ・（建設業）物価高、資源高の影響で、設備投資などの気運が控えめになりそういため、やや悪くなっていると判断する。
- ・（求人开拓員）当所利用者の減少とともに、求人数が若干増加傾向にあるが、ものすごく増えているという感じではないため、変わらないと判断する。

③ 特徴的動き

- ・（製造業（一般機械器具））半導体不足がほぼ解消され、大手企業の自動車生産台数や利益は良い数字が出ている。しかし円安のため輸出する台数が多く、国内で手に入れるのは困難である。このような状況であるが自動車の仕事は依然として増えてこない。
- ・（公共職業安定所）9月調査時と同様に、60歳以上の求職者が増加傾向である。物価高で年金だけでは心もとなく、動けるうちは収入を得たいとの意見がある。

(3) 鹿行地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは48.4となりました。前回調査より4.8ポイント上昇したものの、横ばいを表す50を2期連続で下回りました。

- ・ (民間職業紹介業) 半導体、自動車関係が徐々に動き出した印象があるため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (衣料品販売店) 経済的に少し余裕がある顧客も来店する回数が減ったため、やや悪くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは51.6となりました。前回調査より1.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

- ・ (農業関係者) 最近、為替の影響による円安の進行が落ち着いてきており、今後、金利の状況により円高傾向に傾いてくると思われる。物価高も落ち着いてくるものと思われ、農業資材の価格もやや落ち着いてくるものと予想されるため、やや良くなっていると判断する。
- ・ (クリーニング店) 以前に比べると、客数は増えている気がするが売上げは変わらないため、3か月先も変わらないと判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (日本料理店) 飲食店の廃業が目立つ。夜がまだまだ賑わっていない。
- ・ (金融業) 個人消費の回復に伴い、小売業を中心に売上げが回復している印象。また、各地で祭事やイベントの開催も行われており、コロナ禍前の賑わいが戻ってきている。

(4) 県南地域

① **現状判断:** 景気の現状判断DIは47.8となりました。前回調査より3.3ポイント低下して、横ばいを表す50を4期ぶりに下回りました。

- ・ (小売業(生花店)) 個人消費が伸びていないため、やや悪くなっていると判断した。
- ・ (民間職業紹介業) 取引先の景気低迷、減産のため、やや悪くなっていると判断した。

② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは42.8となりました。前回調査より11.5ポイント低下して、横ばいを表す50を4期ぶりに下回りました。

- ・ (コンビニエンスストア) あと3か月くらいではこの物価上昇の流れは変わらないと思うため、悪くなっていると判断する。
- ・ (製造業(食料品)) 原材料価格や燃料費は上昇傾向。1月~3月までは注文は多くないので粗利は減少すると予想する。委託製品があり、ある程度の売上げは確保できるが経費単価が上がると予想するので、やや悪くなると考える。

③ 特徴的動き

- ・ (サービスエリア) 物価の上昇が続く状況で、売上げとしては以前の状態を維持出来ていても、客数が下回る状況が目立っている。
- ・ (住宅販売会社) 不動産の販売価格、賃料も上げ止まり感があり、金額の高い物件は値下げが始まっている。

(5) 県西地域

- ① **現状判断:** 景気の現状判断DIは56.6となりました。前回調査より7.6ポイント上昇して、横ばいを表す50を2期ぶりに上回りました。

- ・ (タクシー運転手) 良くなっていると判断した。運賃値上げの効果が出ているのではないかと思うが、運転手不足のため思うようには効果が表れない部分もある。
- ・ (農業関係者) 令和5年産の米価が上昇し生産者の収入が増えたため、やや良くなっていると判断した。

- ② **先行き判断:** 景気の先行き判断DIは54.6となりました。前回調査より3.1ポイント上昇して、横ばいを表す50を4期連続で上回りました。

- ・ (サービス業(コンサルタント業)) 一般消費者の消費が少しずつ増えているように感じるため、やや良くなっていると判断する。今後もこの傾向は続くと思う。
- ・ (学校就業関係者) 円安による経費の高騰が続き、利益率が上がらないまま推移すると考える。大企業においての賃上げはあるものの地元企業への波及は望めず、短期的には今の状況が続くと思われるため、変わらないと判断する。

③ 特徴的動き

- ・ (コンビニエンスストア) 物価高騰が続いている中、比較的単価の安い商品が好まれる傾向があると感じる。コンビニエンスストアにおいては、年末商材であるクリスマスケーキやおせちに関しても単価の低い商品が例年よりも好まれていると感じている。
- ・ (人材派遣業) 自社雇用比率を上げ派遣活用の見直しをかけ、人件費削減を進めている企業が増えている印象がある。

(6) 多く寄せられたキーワード

以下では、ウォッチャーから寄せられた回答の中で多く見られたキーワードや、前回から増加したキーワードを含むコメントを掲載しています。

①「値上げ、高騰、上昇」に関するコメント 140件 (県北:29 県央:21 鹿行:27 県南:33 県西:30)

- ・ (スーパー) 商品の値上げの部分で客数減、買上点数減をカバーしていて売上増が今のところ続いているため、変わらないと判断した。
- ・ (学校就業関係者) 一部の輸出中心の企業や観光業等は景気の良い話を聞いているが、物価高騰に賃金の上昇が追い付いていないと思われるため、変わらないと判断する。

②「新型コロナウイルス、コロナ禍」に関するコメント 49件 (県北:9 県央:13 鹿行:8 県南:11 県西:8)

- ・ (レジャー施設) 新型コロナウイルスの収束に伴い、インバウンド需要も戻ってきており、物価の高騰はあるものの、それを差し引いても、以前の水準を上回る数字も出ているため、やや良くなっていると判断した。
- ・ (小売業(弁当・惣菜店)) 人流の復活で景気はやや良くなってきていると判断する。ただ、コロナ禍で作られた習慣は変わらないこともあり、以前同様になるにはまだまだであると感じる。

③「半導体」に関するコメント 10件 (県北:2 県央:4 鹿行:1 県南:1 県西:2)

- ・ (自動車販売店) 半導体の生産が増え物量は増したが、燃料や食品など全ての品目で物価が上昇しているため景気が良いとは思えず、変わらないと判断した。
- ・ (製造業(電気機械器具)) 液晶・半導体製造装置関連において受注残が多い状況が継続している。ただ新規の受注案件が減ってきているため、やや悪くなっていると判断した。

(注) より詳しい情報については、当課ホームページを御覧ください。

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/index.html>